

ここに注目！ 震災後に仮設の商店街を立ち上げ、観光客をはじめとし、力強い集客力で復興を牽引している。



ポイント

津波によって市街地のほとんどが壊滅した中、地元商業者はいち早く「福興市」を開催、復興を目指す町民の意識高揚に多大な効果をもたらした。その実績を基に、平成24年2月25日に南三陸さんさん商店街が発足。周遊を意識した店舗配置による店を巡る楽しさの演出や、屋根付きのフードコート・ステージでの交流イベントの開催等により、地域住民はもちろん、連日1,000人を超す多くの観光客を集め、物を売るという行為を通じて被災地の元気・心意気を全国に発信し、町そのものの復興を力強く牽引している。

[商店街概要及び取組の背景]

ゼロからのスタート

南三陸町は、震災により発生した大津波によって平地の建物の大部分が流失。複数あった商店街も壊滅し、町の商業機能は完全に停止した。

店舗も商品も無い中、地元商業者は自ら立ち上がり、全国の商店街と連携した「ぼうさい朝市ネットワーク」の支援を受けて「福興市」を開催。その実績を基に商店街復活の可能性を見出し、他の仮設商店街にはない独特の周遊を意識した店舗配置や盛大なイベントなど、地元住民から観光客まで皆が楽しめる商店街としての取組に繋がった。

[取組の概要・効果]

Plan・Do

“店を巡る楽しさ”を演出

他の仮設商店街の多くは土地確保の事情から2階建てが多いが、南三陸さんさん商店街では当初から来客の周遊を意識して全て1階建てとした。また、店舗の配置を意図的に不規則とし、店舗の構成についても「飲食店ゾーン」「小売店ゾーン」「暮らしの店ゾーン」に



ゼロからスタートした仮設商店街

分けてテーマパークさながらの“店を巡る楽しさ”を演出することに成功した。商店街の中心には屋根付きのフードコートが設置され、それぞれの店で購入した物を食べながら談笑できる他、ステージでは毎月のようにイベントを開催するなど、町内外の人々の交流拠点としても大きな役割を担っている。

サービスの面では、被災前からの名物として提供されてきた“キラキラ丼”を復活させるなど、他では味わえない海の町独特のサービスでおもてなししている。

[効果の評価と改善策の実施等]

Check・Action

商売人の元気・心意気を発信

震災から2年以上が過ぎた今でも、南三陸さんさん商店街には連日多くの観光客が訪れている。特に、商店街隣接の特設ステージで福興市が開催される日には1万人近い集客があり、人口わずか1万5千人弱(平成25年8月末)の港町であることを考えれば驚くべき集客力と言える。

当初「客足は次第に落ちる」と予想されていたが、こうした息の長い集客を維持できる要因として多くのリピーターの存在がある。モノを売ると同時に商売人の元気・心意気を発信し、多くのユーザーに支持されていることが、集客力が落ちない理由の一つである。

[実施体制]

地域関係団体と綿密な連携

南三陸さんさん商店街における取組に関しては、南三陸町の商業・観光の復興に向け、行政を始め地域の関係団体と綿密な連携を図っている。

具体的には、町が商店街のシンボルとしてモアイ像（1960年のチリ地震に端を発する南三陸町とチリとの友好のシンボル）を設置、町観光協会が商店街の隣接地にポータルセンターを設置するなど観光拠点としての運営を支援しているほか、商工会が商店街運営に関する様々な支援を実施している。

基本データ

所在地：宮城県本吉郡南三陸町志津川

会員数：32名

店舗数：32店舗

関連URL：<http://www.sansan-minamisanriku.com/>



“キラキラ丼”をPRする子供たち



キーパーソン

南三陸志津川福興名店街運営組合
組合長 及川 善祐

南三陸さんさん商店街の経緯と工夫

東日本大震災による巨大津波で我が南三陸町の商店街は全壊、流出の大きな被害を受け、多くの犠牲者を出しました。途方に暮れながら各避難所で日々を送っていた南三陸町の商人達の中に、「いつまでも項垂れてはいけぬ。がれきの中に闇市でもいいから復興の烽火を上げよう！」という気概が持ち上がり、「福興市」と銘打ったテント市を震災翌月から毎月開催。その勢いで仮設商店街「南三陸福興名店街運営組合」を設立して愛称を「南三陸さんさん商店街」と命名し、初代組合長に就任いたしました。

多くのお客様に利用いただき、リピーターになってもらえる商店街をいかにして作るか、オープンまでに30回にも及ぶ会議や勉強会で議論を重ねました。中央のコンサルタントや企画会社、デザイナー、そして震災経験の大先輩である神戸の長田町商店街の方々を招聘しながら研究を重ねていく日々は、とても有意義でした。

そうした協議の末、一戸建てを基本とした回遊性のある

店舗構造や、商店街全体を業種によって3つのエリアに分け、センターコート、フードコート、イベントスペースを中心に囲むように配置。各エリアの壁面と庇の色合いにもアクセントをつけるなど工夫を凝らしました。

現在32店舗で元気に営業いたしております。世界中の皆様方の暖かいご支援に恵まれながら、お蔭様で予想以上の大勢のご来場を賜りまして、只々感謝の念でいっぱいです。

これからの私たちの商店街の目指すところ

南三陸さんさん商店街は、仮設の商店街であるため、2016年11月末が存続期限で、その後は町が造成する新しい市街地に商店街を形成する計画が進んでいます。新商店街には、現在南三陸さんさん商店街に出店している店だけではなく、町内各地に展開している商店や、まだ再開出来ていない商店の出店を募り、50から60店舗で形成できればと望んでいるところです。

震災を乗り越え、賑わいと人の交流が盛んになるまちづくりを目指して、南三陸町の美しく豊かな海を財産に食と観光に力を注ぎ、多くのお客様が楽しめるアイデアを生み出し続けていきたい。私達この町の商人たちが町民と共に一丸となって地域の産業振興の一翼を担うべく、雇用の増進に貢献しながら後継者を育て、次世代に向けた未来志向の復興の歴史を築き上げていきたいと思っております。